

平成27年度『市民による政策評価会』のまとめ

《今年度の市民による政策評価会について》

◆内容：地方創生の積極的な推進に向け、本年5月に策定した「舞鶴市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を題材として今後取り組むべき事業について、市民にアイデアを募集。市民から応募のあった23提案のうち、4提案を事前選定。市民提案者が提案内容を発表し、その内容について、コーディネーターと市民評価員が意見交換を行ったのち、市民評価員・判定員が「必要性・効果・実現性」について評価を行った。

◆参加者：

◇ コーディネーター：窪田好男 京都府立大学公共政策学部准教授

◇ 市民評価員（4名）

一盛広樹氏（舞鶴商工会議所）、河村政夫氏（京都銀行東舞鶴支店）、谷口英子氏（特定非営利活動法人まちづくりサポートクラブ）、福本 清氏（舞鶴自治連・区長連協議会）

◇ 市民評価員（19名）

無作為抽出依頼市民判定員（16名）、公募市民判定員（3名）

◇ 傍聴者（44名）

◆提案内容

	提案者	提案内容
第1提案	仲井玲子さん	まちの人が集まる中心地づくり
第2提案	奥村直生さん	文庫山観光拠点化計画～赤と青と緑の交わる場所～
第3提案	前川寛太さん（発表：川又光貴さん）	東舞鶴コンパクトシティ
第4提案	毛利文彦さん	中学生向け舞鶴のガイドブックの作成

開会式

【市長 挨拶】

市民による政策評価会は、市民の皆さんに市政への関心を高めていただき、積極的にまちづくりに参加してほしいという思いと、市として市民ニーズを把握し、政策に反映していきたいという思いで毎年開催している。

今回は地方創生をテーマとして市民の皆様から様々な提案をたくさんいただいたので、今日はその中から4つの提案を選らんで、ディスカッションしていただくことにしている。

地方創生は1年限りではないので、長い目で様々な意見を聞き、それを政策に反映していき、20年先、30年先自分たちの子や孫に「やっぱりこのまちは良い」と思われるようなまちにしていきたい。

皆様方の熱心な意見をまちづくりに反映していきたいので、よろしくお願ひしたい。

第1提案 『まちの人が集まる中心地づくり』

【提案】

- 一日中誰とも話さない独居老人の増加。
昔は活気があったマナイ通りは、大型スーパー等の進出により今はシャッター商店街となり出会いの場がなくなる。⇒人が集まる憩いの場が必要
- 「西市民プラザを交流の場に」
 - ① 無料駐車場の整備
 - ② コミュニティFM局の設置
(コミュニケーションの場、新たな雇用、他地域との連携)

【意見交換・評価】

全般について

- 孤独なお年寄りの居場所づくりは必要。お年寄り子どもとの交流の場ともなり、お年寄りならではの知恵や経験を子どもに伝えることができる。
- 駐車場の整備費用やランニングコストはかかる
- 憩いの場をつくることで見守りが必要な人を見守ることができる。
- マナイ通りの発展はうれしいので進めてほしい。
- 台風の際、マナイ通りは膝まで水がきた。施設をつくるときにはその対策が必要。

無料駐車場について

- 近辺に駐車場の確保も必要。お年寄りは歩きや自転車が主になるため、駐輪場の整備も必要。
- 駐車場がないことはよく耳にする。西市民プラザはもともと駐車場がないコンセプトでつくられた建物。駐車代が必要となると、払ってまで行きたい場所でないと人が集まりにくくなる。

コミュニティFM局について

- 素晴らしいアイデアだが、ラジオ局の設置だけではつながりを確保するのは難しい。お年寄りが行ってホッとするものが必要。
- ラジオを聞いてもらう・日々チャンネルを合わせてもらえる工夫が必要。
- 災害発生時に防災無線の代わりとなるツール。
- 門川京都市長がα-STATIONで市政情報を発信している例もある。

◆施策判定結果

	必要性		効果			実現性		
	高い	それほど高くない	高い	一定の効果がある	少ない	高い	課題はあるが実現可能	課題が多い
まちの人が集まる中心地づくり	17	7	6	16	2	6	13	5

◆コーディネーターによる意見の総括

- ◇ 必要性・重要性が高いという意見が多かった。
- ◇ いい町だということを共有・発信するものとして、定住促進にもつながると思う。
- ◇ ただし、費用対効果を検討する必要がある。
- ◇ どれくらいの機材やコンテンツがいるのかも考慮がいる。

◆舞鶴市担当者からコメント

松岡係長（舞鶴市企画政策課）

- ◇ FM局の開設については、実際に相談を受けており、市としても応援していきたいと考えている。
- ◇ 防災無線としての利用ができれば、力強い情報発信手段となる。また、放送の中身によっては地域活性化にもつながるので応援していきたい。

第2提案 『文庫山観光拠点化計画～赤と青と緑の交わる場所～』

【提案】

- 舞鶴にはお客を呼ぶことができる観光地はたくさんあるが、知名度はあまりない。
→文庫山を中心に観光の拠点化を計り地域の活性化につなげる。
- 観光拠点としての中心施設「サカノボル」（観光案内所、レストラン、船の博物館の機能を備えた施設）を建設。
- 「船の博物館」では退役した護衛艦を配置。内部の食堂で海軍カレーを提供。
- ホテルの建設（海とクレインブリッジが見えるように配置）
- 遊覧船（舞鶴湾周辺を観光しながら舞鶴の文化・歴史を知る）
- 公園の整備（住民の交流の場、遊覧船待ち時間などに利用できる空間）

【意見交換・評価】

- 非常に興味がある内容だが、かなり費用が必要。護衛艦だけでもよいのではないか。建物も必要か。
- 非常に興味深い。退艦した船を有効活用できる。「しらね」の退役を残念に思っていたが、また見ることができるなら嬉しい。
- 舞鶴には、観光拠点がたくさんあるが、線としてつながっていないので、このような施設は有効だと思う。市長が掲げる「交流人口300万人、経済人口10万人」の観点から見ても需要が高い。
- 駐車場が問題。北吸棧橋は見学者が多く、駐車場が確保できていない。
- 大型観光バスを停めて昼食を取る場所が少ない。
- 護衛艦の中でカレーを食べるのは良いアイデアだと思う。
- 「サカノボル」は文庫山から望む絶景を有効活用できる。
- 自衛隊という観光資源を有効に活用すべき。
- 広島の実市は、駅から降りたら潜水艦が見えインパクトがある。舞鶴も護衛艦を簡単に見られれば、観光客は惹きつけられるのではないか。市民も歴史に誇りを持つと思う。
- 舞鶴の歴史を紹介できる場所として、当施設は魅力がある。赤れんがパークとも合わせて活用できたらなお良い。
- 近隣市からでも護衛艦目当てで来る観光客は多いので、護衛艦の活用は魅力的。
- 当施設の開館で、雇用も生まれる。
- 舞鶴の宿泊率を上げるためにも本案はいいと思う。
- 文庫山下にある市職員駐車場（ゼネラル）を廃止して、施設として利用してはどうか。

◆施策判定結果

	必要性		効果			実現性		
	高い	それほど高くない	高い	一定の効果がある	少ない	高い	課題はあるが実現可能	課題が多い
文庫山観光拠点化計画	17	6	10	10	4	1	12	11

◆コーディネーターによる意見の総括

- ◇ 評価シートでは、
 - 「護衛艦を持ってくるとあるが、技術的にどうするのか」
 - 「市が護衛艦をアピールするのは問題ではないか」
 - 「丁寧な説明をする等で解決できるのではないか」等の意見が上がっていた。
- ◇ 課題としては、費用面、ホテルをうまく運営できる企業の誘致、自衛隊の護衛艦を市がアピールすることの是非、護衛艦を運んでくる技術面などが上げられる。

◆舞鶴市担当者からコメント

三浦室長（舞鶴市観光まちづくり室）

- 舞鶴市が抱える課題を多方面から分析し、本案に反映していただいている。評価会で出た意見を含めて、今後市で話し合っていく予定。

第3提案 『東舞鶴コンパクトシティ』

【提案】

- 対象地域は「八島商店街と国道 27 号線」。舞鶴の空き家率は平成 20 年度から急激に増えている。この現状を元にコンセプトした。
- テナント（階層で店の種類を分ける、ガラスを多く使う）、市営団地（商店街に住んでいた人、1 ターン者に安く住まわせる）宿泊施設（団体で泊まれるホテル）、福祉施設、交流施設、緑化公園、歩道橋、駐車場（収容量の多い立体駐車場）、公園を中心にコミュニケーションをはかる。

【意見交換・評価】

- コンパクトシティの考え方自体は非常に良い。
- 構想自体は楽しいと思う。
- 商店街が多いので、それを活用し、空き家の利用を促進した方が良いのではないかと？
- これぐらいの事業をやらないとまちのドーナツ化現象を止め、まちを活性化させられないと思う。
- 身近に病院があるのは安心感がある。
- 高齢者のみでなく、多世代が利用できる施設にした方が良いのでは？
- 住居型ではなく就労型の方が有効と思う。
- 団体の宿泊施設を考えているが、リピーターを増やすことが課題だと思う。
- 子育て支援の視点で小規模保育などもあって良い。
- 子育て世代や親子が集えば、コミュニティに活力が生まれ、1 ターンなどにもつながる。
- いろんな街に住んだことがあるが、舞鶴は思いきったことができていない。しがらみがあるのだろう（土地柄）。土地を等価交換（移動）し、コンパクトにしていってはどうかと思う。
- 商店街は、駐車場がない、いろんな物を買いたい時に買えないという問題がある。商店街がテナントに集まってくるのは有効的だ。駐車場の整備と導線の検討が必要。

◆施策判定結果

	必要性		効果			実現性		
	高い	それほど高くない	高い	一定の効果がある	少ない	高い	課題はあるが実現可能	課題が多い
東舞鶴コンパクトシティ	9	15	2	13	9	2	9	13

◆コーディネーターによる意見の総括

- ◇ 必要性はそれほど高くない、効果は一定の効果がある、実現性は課題が多いとの意見。
- ◇ 「現実的に考えると立ち退きが難しい」
「商店街は問題で今まで以上に盛り上げるにはこれぐらい大きな投資をしてもいい」
「コンパクトシティとしての考え方は良い」

「別の地区でやってほしい」
「商店街をどうするか」
「商売をなんとかするという発想はよいと思う」
「丁寧な説明をする等で解決できるのではないか」等の意見が上がっていた。

◆舞鶴市担当者からコメント

小島部長（舞鶴市建設部）

- ☆ 「コンパクトシティ構想」を舞鶴市も取り組んでいる。このエリアに近いところを考えている。高松市の商店街では、成功している。
- ☆ 実現性については、平面的に配置した点に少し無理があると思う。公園を屋上に作るなど縦に考えると実現的かもしれない。市民（民間）と市役所の役割分担も大切だ。

第4提案 『中学生向け舞鶴のガイドブック作成』

【提案】

- 中学生向け、まちを知り、まちを好きになるガイドブックがあれば定住促進につながると思う。
- 内容は自然、食、地方創生をメインにする。
- 舞鶴市では小学3年生向けの市を紹介する副読本があるが、中学生向けはより広く深い内容にしたい。大人でも楽しめる内容にしたい。
- 費用は、B5サイズ・フルカラー100ページ 1000部で150万円程度。
- 作成ポイントは、①広い分野から取り入れる②用語解説、写真、クイズ等で工夫③学校で利用。

【意見交換・評価】

- 中学生に実際に体験してもらい、地元のよいところを知ってもらうことが、地元で将来戻ってきってもらうためには必要。
- 自分の子供は「細川幽斎」を知らなかった。舞鶴の将来のためにも、これからの舞鶴を担っていく世代に舞鶴の歴史等の教育は必要。
- 子供たちが地域と触れ合う機会を市がつくることも必要。ガイドブックはその入口として最適である。
- 中舞鶴に住んでいて、先日公民館主催で地域を知る講座があった。これまで知らなかったことを初めて知った。長く舞鶴に住んでいる市民でも知らない歴史がある。ガイドブックで学び、実際に地域に出て体験することが必要。
- 定住のいいきっかけになるのではないか。
- 若者向けなので、舞鶴での遊び方も掲載したらどうか。
- 中学生と限定せず、広く一般向けの内容にしてはどうか。
- 他の提案と比べて「ガイドブック」は人を作っていく提案であり、夢や思いを込めていくことが可能。
- よりよいまちにしていくためには、ふるさとを思ってもらう人材が大切。

◆施策判定結果

	必要性		効果			実現性		
	高い	それほど高くない	高い	一定の効果がある	少ない	高い	課題はあるが実現可能	課題が多い
中学生向け舞鶴のガイドブックの作成	22	1	11	12	0	20	2	1

◆コーディネーターによる意見の総括

- ◇ 地方創生に基づき、アイデンティティを学ぶ基礎となる提案だと考える。
- ◇ 中学校でのテキストバージョンと一般向けのガイドバージョンの両方があるのも良いと思う。

◆舞鶴市担当者からコメント

瀬川部長（舞鶴市教育振興部）

- ◇ 舞鶴に誇りを持ち、舞鶴を愛する若者を育てて行くことが必要。
- ◇ 小学生は副読本で学習、校外学習もしている。
- ◇ 本案は教育委員会として重要な内容であった。検討していきたい。

閉会式

【コーディネーター 挨拶】

行政には、直接的・間接的に取り組んでいただき、検討してもらいたい。

評価員・判定員の皆さんには、一日政策評価会に参加いただいたが、今日の提案がいずれ、どのような形で実現した時にそのプロセスに係わったと思うえることが大きな報酬であると思う。お疲れ様でした。

【入江企画管理部長 挨拶】

コーディネーター、評価員・判定員の皆さんのご協力により、4件の市民提案について、前向きで貴重なご意見を頂戴し、評価会を終えることができた。心より御礼申し上げます。

昨日「自治会長・区長のつどい」という催しがあり、その活動方針の中に「市民の側から意見を述べる機会」として、「市民目線での意見の反映を」という項目が示されていたが、この「評価会」もそうした場のひとつと考えている。

自分の住んでいるまちに愛着を持ち、大人が子ども達に「舞鶴はいいところだよ」としっかり伝えることが、舞鶴版地方創生の実現に向けて大きな力となる。

皆様には引き続きご理解とご支援を賜るようお願いしたい。